

井上哲次郎『訂増英華字典』の典拠  
——動詞の自他、分詞、付録を中心に——

宮田和子

はじめに

ロブシャイト (W. Lobscheid) 『英華字典』(1866~69LOBと略称) を底本とする井上哲次郎『訂増英華字典』(1883~85井上と略称) の刊行にあたっては、大新聞がこぞって賛辞を寄せており、当時の知識層がいかに大きな期待をもっていたかがうかがえる。井上に増補訳語(漢字語)の多いことは森岡1969で指摘されていたが、それらが次の4書からとられたものであることは、すでに明らかになっている(宮田1999 参照)。

(略称)

S.W. Williams 『英華韻府歴階』(1844)	<u>WIL</u>
J. Doolittle 『英華萃林韻府』(1872)	
第一部および第三部	<u>DOO-1, DOO-3</u>
鄭其照 『字典集成』(1875)	<u>其75</u>
中村敬宇 『英華和譯字典』(1879) <u>中村</u>	

井上に関わる先行研究にはほかに、荒川1997、大阪女子大学附属図書館1962、杉本1999c、金敬雄1999a、1999b、那須1998、<sup>1)</sup>森岡1991 があるが、原著にない井上の品詞表記、動詞の自他、分詞、付録の典拠をまとめてとりあげたものはみあたらない。この点を明らかにするのが、本稿の目的である。

1 漢字語に対応する英語

漢字語の出所がLOB、あるいはLOBを含む諸英華辞典である場合は、英語はおむねLOBと一致する。つぎの例では、「下馬」「落馬」「下馬車」「簡而的當」は

LOB、「下車」「簡而明」「要略」は其75からだか、英語はいずれもLOBからとっている。

Alight, *v.i.* ... to alight from a horse 下馬、落馬 ; to alight  
from a carriage, 下馬車、下車

Laconic, Laconical, *a.* Expressing much in few words 簡而的當、簡而明、  
要略

漢字語の出典がDOO-1だけなら対応する英語もDOO-1、漢字語がDOO-3なら英語もDOO-3と同じものからとられるのが普通だが、中には漢字語はDOO-3だが、英語はウェブスターというように、別の2書を組み合わせたものもある。つぎの例では「最高點」と「密率」はDOO-3の32(数学・天文学)からとったものだが、英語の説明はDOO-3にはなく、ウェブスター大型本、メリアム社刊行の1863年版にあらわれる。「世業」「自主之世業」はLOBにあるが、英語はLOBにはなく、1863年版からとったものである。

Apogee, *n.* That point in the orbit of a planet, which is at the  
greatest distance from the earth 最高點

Approximation, *n.* in *arithmetic* and *algebra*, a continued approach  
or coming nearer and nearer to a root or other quantity, without  
being able, perhaps, ever to arrive at it. 密率

Allodials, *a.* Held independent of a lord paramount 世業、自主之世業

井上にとられた英語(便宜上長めのものに的をしぼった)のうち英華諸辞典にないものは、少数の例外を除いてウェブスターと一致する。しかも1869年の簡約版が東京大学に所蔵されている(早川1998:137)という耳よりの情報もある。井上が使わなかったとかんがえるほうが不自然である。内閣文庫には数多くのウェブスターが所蔵されているので、このうちのどれを、どの項目に井上が使ったかを調べてみよう。

ウェブスターは種類が多く、増補にせよ、削減にせよ、頻繁に行われているのだが、その多くは付録の部分であって、本文じたいの変更はさほどではない。井

上に関わるのは本文だけなので、本文のページ数を基準にして、書名に関わりなくグループ分けすることができれば、調査は簡単になるはずである。本文ページ数の少ないものを除外し、早川1998:135の表をもとにして再編成したところ、早川氏が「イギリス系」として別扱いにしているものが、すべてメリアム社、リビンコット社などが出版した、本流のアメリカ系と一致することがわかった。本文に関するかぎり、ページ数が同じものは内容もまったく同じであることは、すでに確認済みである。井上に関係のある1863～1882年あたりを対象としてみていく。

メリアム社が刊行した大型本はGoodrichが単独で編集していた1864年以前とPorterが加わった1867年以後の版とで、大きく様相を変える（早川1998:135は内閣文庫所蔵のE17313を1865年に刊行されたものとみて1864年に改訂が行われたとしているが、これは事実と異なる。E17313は付録の扉から1872年の刊行とするのが正しい。1865年版と1866年版は同文庫にはなく、カードでみるかぎり、国会図書館にも所蔵されていない。したがっていまのところ、改訂は1865、1866、1867のいずれかの年に行われたとしかいえない<sup>2)</sup>）。

リビンコット社が発行した「簡約版」の収録語数は、1828年にでた親版の収録語数を上回るという（早川1998:96）。前述のように、この1869年版が東京大学に所蔵されているということと、編者が改訂前と同じGoodrichであることも手伝って、「簡約版」は重要である。ほかに巻末のイラストで人気を博した通称Pictorial Dictionaryがあるが、本文のページ数が少ない上に、概観したところ、井上との共通点が少ないので、これは対象からはずしてさしつかえないと判断した。まとめると、つぎの3種が対象になる。

	本文ページ数	略称
改訂以前の版	1281（大型本）	<u>改訂前</u>
改訂以後の版	1538（大型本）	<u>改訂後</u>
簡約版	1152（中型本）	<u>簡約</u>

井上の増補した英語から、諸英華辞典に依拠したものを除くと、〔A〕71語、〔L〕18語、〔Y, Z〕0語がこのころ（句や文のかたまりも1語としてかぞえる）。うちウェブスターと完全に、あるいはほぼ一致するものは、つぎのとおりである。

	改訂前	改訂後	簡約
〔A〕	54語	35語	50語
〔L〕	13語	9語	13語
〔Y, Z〕	0	0	0

増補した英語については、改訂前の影響がもっとも大きく、簡約がこれに継ぎ（簡約にしかないものも含まれている）、改訂後の影響はさほどでないことがわかる。それぞれの例をつぎに示す。<sup>3)</sup>

改訂前の例：A.M. anti meridian (before noon); A.M. artium magister(master of arts)

Alarming. *ppr.* Exciting solicitude by a prospect of evil.

Amends. *n. pl.*, Compensation for an injury.

改訂後の例：Attraction. *n.* capillary attraction; cohesive attraction

Ark. *n.* A small close vessel, chest or coffer.

Aromatic. *n.* a plant, drug or medicine, characterized by a fragrant smell.

簡約の例：Assignet. *n.* A public note or bill issued by the revolutionary government of France.

Lime. *n.* A species of acid fruit smaller than the lemon.

## 2. 見出し語

井上にはLOBにないあたらしい見出し語がある。

	〔A〕	〔L〕	〔Y, Z〕	計
<u>LOB</u>	2,660	1,235	133	4,020 語
<u>井上</u>	2,695	1,240	137	4,072 語

井上の新設の見出し語52語のうち、WILからとられた花の名の例(1)と、DOO-1からひきついだ例(2)を次にあげる。英華辞典関連のものは専門用語が多い。

(1) *Ardicia crenulata, n.* 烏那

(2) *Anaesthesia, n.* 迷蒙忘痛法

Ardisia lentiginosa, *n.* 火龍珠Lampsana, *n.* 天芥菜Ardicia littoralis, *n.* 春不老Zornia purchellum, *n.* 亞婆錢

井上は品詞の種類、動詞の自他、分詞によって別の見出し語をたてることが多い（次項参照）。しかし、LOBをはじめ諸英華辞典にはこうした表記は一切ないので、井上はまず中村を参照して枠組みをつくり、細部についてはウェブスターに拠ったとみられる。ウェブスター関連の新設見出し語はおおむね一般用語であり、改訂前に依存したものが多い。

All-perfect, *a.*All-pervading, *a.*All-seeing, *a.*All-sufficient, *a.*Alms-basket, Alms-box, Alms-chest, *n.*

### 3. 品詞表記、動詞の自他と分詞

井上は品詞表記をつけたために、見出し語がふえることがある。以下は井上の例である。LOBではたいてい一括して処理されている。

Accessory, *a.* 従、相連Liberal, *a.* 寛大、博Accessory, *n.* 同謀者Liberal-hearted, *a.* 寛心的

動詞の自他と分詞については井上と改訂前との共通点がきわだつて多い。動詞の自他は使用頻度によって配列の順序がかわるが、井上と改訂前ではこうしたこまかいところまで一致している。つまり、改訂前でvi, vtの順にならんでいる動詞は、井上の表記もvi, vtの順になっている。逆もまた然り。

<u>改訂前</u>	<u>井上</u>
Abate, <i>v.t.</i>	Abate, <i>v.t. or i.</i>
Abate, <i>v.i.</i>	
Languish, <i>v.i.</i>	Languish, <i>v.i.</i>
Languish, <i>v.t.</i> [Little used]	-
Laugh, <i>v.i.</i>	Laugh, <i>v.i. or t.</i>
Laugh, <i>v.t.</i>	

改訂後は動詞のテンスにimperfectをとりあげ、分詞にverbal nounを導入し、形容詞性をつよいものだけを選んで別項を立てている。井上との違いはつぎの例からもわかるように、一目瞭然である。簡約も改訂前と同じ形式をとっている。

<u>改訂前</u> <u>井上</u>	<u>改訂後</u>
Afflicted, <i>pp. or a.</i>	Afflict, <i>vt.(imp. &amp; pp. afflicted)</i>
Alarming, <i>ppr.</i>	Alarm, <i>vt.(p.ppr &amp; vb. n. alarming)</i>
(Alarming, <i>ppr. &amp; a.</i> — <u>簡約</u> )	

しかし品詞略語では、井上はなぜか改訂前(*pp. ppr.*)と、改訂後(*conj. interj.*)を併用している。

<u>改訂前</u> <u>簡約</u>	<u>井上</u>	<u>改訂後</u>
a.	a.	a.
adv.	adv.	adv.
con.	<u>conj.</u>	<u>conj.</u>
exclam.	<u>interj.</u>	<u>interj.</u>
n.	n.	n.
pp.	pp.	p-p.
ppr.	<u>ppr.</u>	p-pr.
prep.	<u>prep.</u>	prep.
-	-	v.

-	-	vb. n.
v.i.	v.i.	v.i.
v.l.	v.l.	v.l.

ちなみに中村はcon. conj. およびexclam. interj.を混用しており、略語については一貫性を欠く。混用は複数の関与をしめすのかもしれない。中村に訳者として加わった津田仙らが品詞表記を分担して行ったということもありうるだろう。

#### 4. 付録 (Appendix)

宮田1999では増補訳語（漢字語）の出典の解明に的をしぼったために、付録の典拠は不明のままになっていた。大阪女子大学附属図書館1962:585は、井上の大量の付録がLOBに載っていないことから、LOBの増訂版が別にあるのではないかと推論しているが、これは英華辞典の全国調査（飛田・宮田1997:501～601）の経過からみて、ありうることは思えなかった。

森岡1991:79 は付録の重要性を指摘し、杉本1999c:470に付録の典拠はドーリトル『英華萃林韻府』ほか諸書との指摘があるが、具体的な考察はなされていないので、以下やや詳しくみていくことにしたい。

『英華萃林韻府』はAmerican Boardに所属する宣教師ドーリトル（J. Doolittle 廬公明1823～1880）の手になるもので、中国各地に住む外国人、中国人の英語学習者、外国の中国語学習者を対象とする。2巻3部からなり、第一巻に第一部（D00-1）、第二巻に第二部と第三部（D00-3）を収める。

D00-1は序によれば、漢字17500字、用例66000を収録し、正書法はWadeの北京官話に拠るといふ。第二巻に南方官話との比較を掲げる。第二部も英華でいずれも配列はABC順だが、見出し語と用例が異なる。また発音表記は第一部だけで、第二部にはない。

D00-3は宇宙、地質、機械、商業などの専門用語からことわざ、茶の売買の対話、料理、祭などの一般用語に至る85項目からなり、大使館員、税関関係者、宣教師その他当時の中国在住者の提供した種々雑多な情報を載せている。アヘン戦争に敗れた結果、中国は西欧人に対する行動制限を大幅に緩和せざるをえなくなっていた。英華、華英、華仏英、華独英、華拉英と対訳のしかたも多様だが、井

井上の付録は仏、独、拉を削除して、英語と中国語の部分だけを採録している。したがって各項目のタイトルも原著のDOO-3と井上ではやや異なる場合がある。ここでは井上のものを載せておく。

左端の数字はDOO-3の、括弧内の数字は井上の付録の、配列順を示す。いずれももとはローマ数字で書かれているが、ここではアラビア数字になおした。たとえば ‘2(10) Four Hundred Proverbs and Plain or Metaphorical Terms’ は、井上の ‘Four Hundred Proverbs……’ はDOO-3では2番目、井上では10番目に載っていることを意味する。

2(10)- Four Hundred Proverbs and Plain or Metaphorical Terms

— 諺と比喩400例をあげる。C.C. Baldwinによる。

4(16)- An Ethnographical Table of Central Asia

— 中央アジアの民族誌で、Klaprothの*Tableaux historique l'Asie*の翻訳を採録。9世紀までを扱う。Geo. Philipsによる。

6(13)- Buddhist Words and Phrases — 仏教用語。J. Edkins, B.A. Londによる。

7(14)- Tauist Words and Phrases — 道教用語。J. Chalmersによる。

10(3)- Book of Rewards and Punishments

— 勸善懲惡の書。中、仏、英の3か国語で仏訳はS. Julian, 英訳はT. Wattersによる。井上は仏語を削除。

19(6)- Two Hundred Antithetical Couplets

— 対句 200例をあげる。諺や格言として用いられた。J. Doolittleによる。

29(7)- Over Two Hundred Proverbs from Ningpo

— 寧波の住民に親しまれている諺 200 余を集める。A. E. Mouleによる。

33(1)- Trimetrical Classic

— 三字經。独訳はR. Lechler, 英語版の原本は *Chinese Repository* vol.4。英語版の改訂増補はE. C. Bridgman, 注解の翻訳はC. F. R. Allenによる。井上は独訳を削除。

34(2)- A Scripture to Awaken the World

— 覺世眞經。独訳は P.G. Von Moellendorff, 英訳はR. Morrisonによる。井上は独訳を削除。



## 40(4)- Collection of Pearls

－珠玉の詞集。『傳家寶』からJ.C. Neviusが翻訳。

## 45(5)- Section on Merit

－『傳家寶』からの抜粋。富者には金をだして得られる功德、富者以外には金をださずに得られる功德を説く。C.F. Prestonの翻訳による。

## 51(17)- A List of the Principal Countries and Places mentioned in the

Travels of Fa Hien 法顯 and Heuen Chwang 玄奘

－法顯と玄奘の旅行記に現れる主要仏教国と地名を列挙する。G.Phillipsによる。

## 53(8)- Proverbs in Chinese and English

－中国語と英語の諺を集めたもので、中国語はPernyの *Proverbes Chinois* 『中国俗語』から採録。中国語から英語への翻訳はH. J. Allenによる。

## 54(9)- Miscellaneous Proverbs in Chinese and English

－仏語・中国語・英語の諺を集める。仏語と中国語はPernyの『中国俗語』から採録。仏語から英語への翻訳は H. J. Allen による。井上は仏語を削除。

## 55(11)- Book Phrases and Proverbs used by Preachers

－古典からの引用とことわざを列挙したもので、福州の中国人宣教師があつめた。C. Schmidt の翻訳による。

## 66(18)- Geographical Names in Tartary and Neighbouring Countries

－タタール地方と周辺諸国の地名をBiot の *Geographical Dictionary* からとって訳したもの。G. Phillipsによる。

## 67(19)- Countries and Places Adjacent to China on the South and in the Indian Ocean

－中国南方からインド洋にかけての近隣諸国と地名。G. Phillips による。

## 70(12)- Metaphorical and Proverbial Sentences

－比喩と諺。主にDavis *Moral Maxims* 『賢文書』から抜粋。

## 73(20)- Weights and Measures

－度量衡の表。Williamsの*Commercial Guide*, Baldwinの*Manual of the*

*Foochow Dialect*, Hobsonの*Medical Vocabulary*を参考に作成。

74(15)- Miscellaneous Numeral Phrases

—数詞を含むフレーズ。J. Doolittleによる。

83(22)- Miscellanea

84(21)- Miscellaneous Tables in English and Chinese

—雑表。Williamsの*Commercial Guide*と*Notes and Questions on China and Japan*, およびMayerの*Anglo-Chinese Calendar Manual*より主として採録。

井上が付録で採録したものは、DOO-3の85項目のうちの上記22項目である。一方、井上の本文の増補訳語（漢字語）には85項目中12項目からとられている（宮田1999:70）が、たがいに重複を避けている。井上は、本文でとらなかった漢字語を、付録で補おうとしたのではなかったか。いずれにせよ、井上ができるだけ多くの漢字語を収集するために、いかに本書を重視していたかを、この一事からも察することができる。井上はおおむねDOO-3をそのまま受け継いでいるが、日本人にとって不要と思われる部分（たとえば84-(21)-Miscellaneous Tables...の乗法、除法、加法）ははぶく、といった配慮も怠っていない。

おわりに

井上で増補した英語は諸英華字典から採録したもののほかに改訂前、改訂後、簡約からもとっている。動詞の自他、分詞の処理では改訂前に大きく依拠している。LOBの増補版は存在せず、懸案となっていた付録の典拠は、DOO-3であることも明らかになった。漢字語についてはすでに解明を終えているので、これで井上の増補部分の典拠を、すべて明らかにすることができたと思う。井上の漢字語の典拠は4書（「はじめに」参照）、それに英語の出典として改訂前、改訂後、簡約があらたに加わることになる。

井上に井上哲次郎の手になる造語が載っている可能性はほとんどない。発音表記も落ちている。これは井上の限界を示すものだという見方もある。しかし、品詞表記、動詞の自他、分詞の処理といった細目のひとつひとつにウェブスターを参照した形跡がみられることから、翻訳に必要な漢字語の収集はむろんのこと、井上のいまひとつの目的はウェブスターにならって近代辞書の形式をととのえた

辞典をつくることにあったといえるだろう。井上はことばを拾い集めたただけだという非難はあたらない。

中村も同じくLOBを原著とするが、和訳をいれた分削除が多い。和訳はおおむねカタカナで書かれているが、漢字語もまじっており、なかには現在も通用するものがかなりある。ウェブスターの影響もみのがすことはできないが、品詞表記は統一されておらず、井上に比べれば杜撰な照合だというほかない。中村と井上の関連、さらには英和辞典への影響を今後みていく必要があると思う。ウェブスターの影響が最初にあられるのは、英華辞典ではLOB<sup>4)</sup>、わが国の英和辞典では『改正増補 英和对訳袖珍辞書』であり（早川1998:147）、両書の刊年が奇しくも同じ1866年であったことも、つけ加えておきたい。

#### 注

- 1) F. Kingsell『英華字典』(1897, 1899)の見出し語と品詞表記はほぼ完全に井上からの転写である。井上はLOBの広東語表現をそのまま受け継いでいるが、キングセルは広東語表現を排除したために、漢字語には井上から削除、あるいは変更したものが多し。しかし、1897年版と1899年版では、本文も巻末に添えた書式もまったく同じ内容である。那須1998bで両書を同時にとりあげる必要は、果たしてあったのだろうか。
- 2) 内閣文庫所蔵のE5634は本文、付録とも刊年不載だが、〔Z〕の脚注が2行から1行に変わる（1875年版以降に共通）、Supplement of Additional Words and Definitionsが加わる（1880年版以降に共通）、ページ数が急増すること（1885年版以降に共通）などの特徴がある。したがってE5634が1885年以降に出版されたことまでは推定できるが、これを1885刊と特定する（早川1998:136）ことは可能だろうか。
- 3) 井上に‘Lording, *n.* A small lord, 小主, 少爺, 少老爺’とあるが、‘A small lord’は改訂前の‘A little lord’の‘little’を、主観的な評価を含まない‘small’に置きかえたものと思われる。改訂前には‘A little lord: a lord in contempt or ridicule’とあって、lordに対する侮蔑の意をあらわすが、対応する漢字語はむしろ敬称とみられるからである。

Alpaca, *n.* The Peruvian sheep, ...a thin kind of cloth (井上)は An animal of Peru, used as a beast of burden, and more particularly for its wool (改訂前)を要約したものともみられる。

なお動詞以外の品詞表記がすべて一致するわけではない。たとえば改訂前 We arrived too lateのlateをadv.としているが、井上はadv.をたてず、What brings you here so late?をa.に一括している。あるいは、Ahを、改訂後、簡約、井上はinterj.とし、改訂前は語釈だけで品詞表記をつけないという例もある。

- 4) Great difficulty has been experienced in the selection and rejection of the English words. Though all those words marked as obsolete and ‘little used’ in Webster have been omitted, there are still some, which a missionary, and others which a merchant may not require. (LOB序文) とあるように、LOBはウェブスターを利用しながらも、もっぱら実用性を重視し、宣教師や商人に必要でないと思われる語は極力避けていた。品詞表記や動詞の自他などは、最初から度外視していたのである。

#### 参考文献

- 荒川清秀1997 『近代日中学術用語の形成と伝播——地理学用語を中心に』白帝社  
 大阪女子大学1962 『大阪女子大学蔵 日本英学資料解題』  
 杉本つとむ1999a 『辞書・事典の研究I』杉本つとむ著作選集6八坂書房  
     1999b 『辞書・事典の研究II』杉本つとむ著作選集7八坂書房  
     1999c 『日本英語文化史の研究』杉本つとむ著作選集8八坂書房  
 金敬雄1999a 「井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の削減についての考察」  
     『行政社会論集』第11巻第4号福島大学行政社会学会  
     1999b 「井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての  
     考察(1) ——符号に関わる訳語の修訂——」『行政社会論集』第12巻第2号  
     福島大学行政社会学会  
 沈国威1994 『近代日中語彙交流史』笠間書院  
 菅原光穂1989 「ウェブスター辞典の系譜」『岐阜大学教養学部研究報告』第24号  
 永嶋大典1970 『蘭和・英和辞書発達史』講談社  
 那須雅之1997 「Lobscheid の《英華字典》について——書誌学的研究(1)——」

- 『文學論叢』第114輯 愛知大學文學會  
1998a 「Lobscheid の《英華字典》について——書誌学的研究(2)——」  
『文學論叢』第116輯 愛知大學文學會  
1998b 『近代英華・華英辞書集成』 大空社  
早川勇1998 『ウェブスタ——辞書と英和辞典』 中部日本教育文化会  
飛田良文・宮田和子1997 「十九世紀の英華・華英辞典目録－翻訳語研究の資料  
として」『国語研究6近代語の研究』 明治書院  
宮田和子1999 「井上哲次郎『訂増英華字典』の典拠——増補訳語を中心に——  
『英学史研究』第32号 日本英学史学会  
森岡健二1969 『近代語の成立 明治期語彙編』 明治書院  
1991 『改訂近代語の成立 語彙編』 明治書院

## 近代東西言語文化接触研究会の活動

### 第1回研究例会

日時：1999年11月28日（日）14:00-17:30

場所：関西大学新関大会館北棟3F33会議室

発表者と発表題目：

宮田和子（東亜学院）	鄭其照の『字典集成』について
永井崇弘（福井大学）	浅文理訳聖書の文体構造について
内田慶市（関西大学）	漫談“您nin”

### 第2回研究例会

日時：2000年4月29日（土）14:00-17:30

場所：関西大学新関大会館北棟3F33会議室

発表者と発表題目：

木津祐子（京都大学）	唐通事唐話研究のために
奥村佳代子（関西大学・非）	『唐話纂要』と『唐語使用』の語彙
谷口知子（関西大学・院）	「望遠鏡」について

### 第3回研究例会

日時：2000年7月30日（日）14:00-17:30

場所：関西大学新関大会館北棟3F33会議室

発表者と発表題目：

西山美智江（関西大学・非）	『江鮑笑集』にみれる呉語と官話
陶 徳民（関西大学）	清板「二弁」を祝う泊園の賀宴 ——幕末期における徂徠学の動向——
竹内 誠（京都外国語大学）	清末民初の新聞小説に見られることば ——冷佛の实事小説を中心として

### 第4回研究例会 開催のお知らせ

2000年12月2日（土）午後14時～17時半 関西大学にて開催される予定、発表者を募集中！希望者は内田、または沈までご一報ください。